

# 本堂

本尊不動明王及び八大童子をまつる祈願堂場。  
嘉永4年(1851)再建。

# 三門

三解脱門で迷いより悟りに入る門の意。扉下では普光寺に次ぐ規模。  
扉上に十六羅漢を安置。嘉永元年(1848)再建。

# 鐘楼

昭和35年当山開基1100年記念として再建。  
大梵鐘は重量1340kgの近畿第一の巨鐘。

# 参道杉並木

仁王門から三門・本堂へと続く参道の樹齢数  
百年の杉並木。石垣の隙間には光苔が自  
生している。

# 光苔

参道石垣の石の隙間、  
本坊庭園の縁の下な  
どに自生し、光線に反  
射して美しく神秘的  
に輝いて見える。  
(4月中旬~11月上旬)

# 弁天堂

(重要文化財)

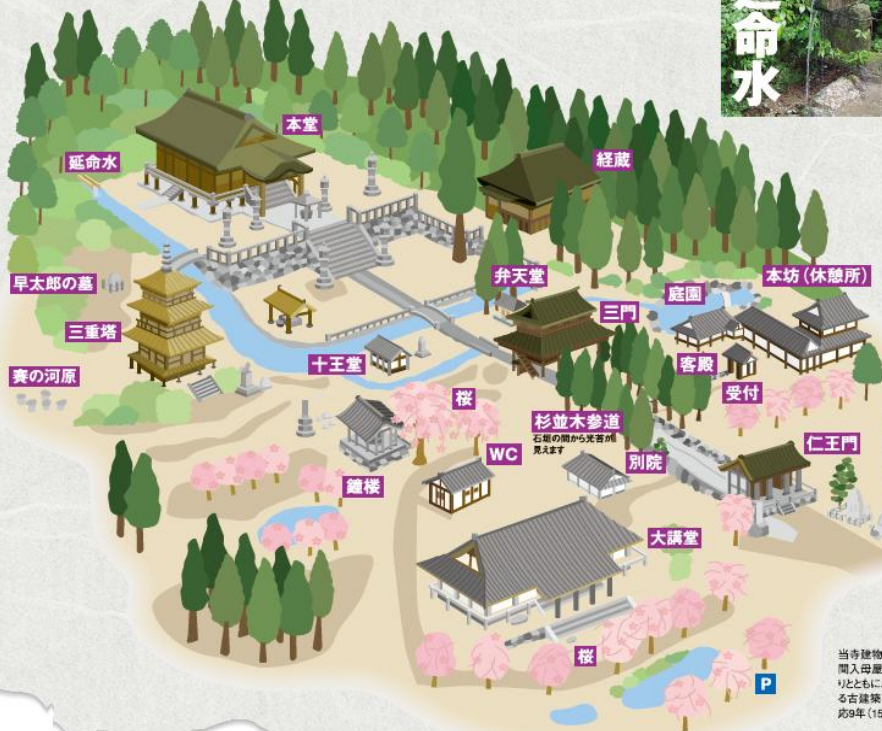
当寺建物中最も古い建物で、方一間入母屋造り。内部彫子の宝形造りとともに、室町期の様式をうかがえる古建築。弁財天・十五童子は明応9年(1500)七条大倉法親の作。



# 三重塔

(長野県県宝)

南信州唯一の三重塔で、高さ17mの均整のとれた美と、彫刻の美しさは高く評価されている。五智如来を安置。文化5年(1808)再建。



## 天台宗 別格本山

# 宝積山 光前寺

- ◆ 開基 / 貞観2年(860)
- ◆ 開山 / 本聖上人
- ◆ 本尊 / 不動明王(秘仏)
- ◆ 宗派 / 天台宗(比叡山延暦寺末)

光前寺は今より1150年前の平安時代に本聖上人により開かれた天台宗の古刹である。開祖本聖上人は、比叡山にて研学修業の後、この駒ヶ岳の山麓籠ヶ沢にて草庵を結び修行中、仏の夢告により太田切黒川の瀑の中より不動明王の尊像を授かりこの地に寺を開かれた。以来1150年の長い歳月の間には幾多の火災等により古記録を焼失し、詳しいことは定かではないが、戦国時代には武田・羽柴家等の武将の保護を受け、特に徳川家からは地方寺院としては破格の60石の寺領と10万石の大名格を与えられるなど、隆盛を極めた。明治以後は、多くの末寺等も廃寺となったが、今なお樹齢数百年の杉の巨木に囲まれた広大な境内には本堂をはじめ十数棟の堂塔を備える長野県下屈指の大寺である。

靈犬早太郎伝説の寺、光苔や枝垂れ桜の寺としても有名であり、南信州の折願霊場として広い信仰をあつめている。また、境内全域を含む6.7ヘクタールが光前寺庭園として国の文化財「名勝」に指定され、静寂な環境と風致は長野県下随一と称せられている。天台宗の特別寺(別格本山)である。



寺院を守護する金剛力士像を安置。  
仁王像は大永6年(1528)七条門院靈應三代隆延法親の作。



本坊客殿裏の庭園。築山泉水庭であり、前面に池を掘りその奥は自然の傾斜地を築山にみなし巨石を建て庭景の中心としている。一帯には、阿彌陀如来の権衆浄土より来迎を表現した極楽浄土の庭園ともいわれている。年代作者不明(養・拝観奉納金)